

福井の建築

(坂井・奥越エリア)

第46回建築士事務所全国大会では、横浜支部は9名の参加がありましたが、各自、委員会との関係もあり、横浜支部としての独自のエキスカージョンは計画しませんでした。ここでは梅原が根岸さんと廻った建物の報告をさせていただきます。

10月12日(土)

① 越前大野城、城下町武家屋敷

天正4年(1576)金森長近が亀山に築造し、碁盤の目の城下町を整える。大野城は昭和43年(1968)再建され、盆地の中の標高約249mにある城という事で、雲海に浮かぶ天空の城として有名である。



② 一乗谷朝倉氏遺跡博物館、遺跡
福井市南東部の山里・一乗谷で5第103
年にわたり繁栄を極めた朝倉氏5代義景
は織田信長に大敗し一乗谷は町ごと焼
き払われてしまう。
令和4年、内藤 廣 設計の博物館ととも
に遺構などが見られるように計画され
た。



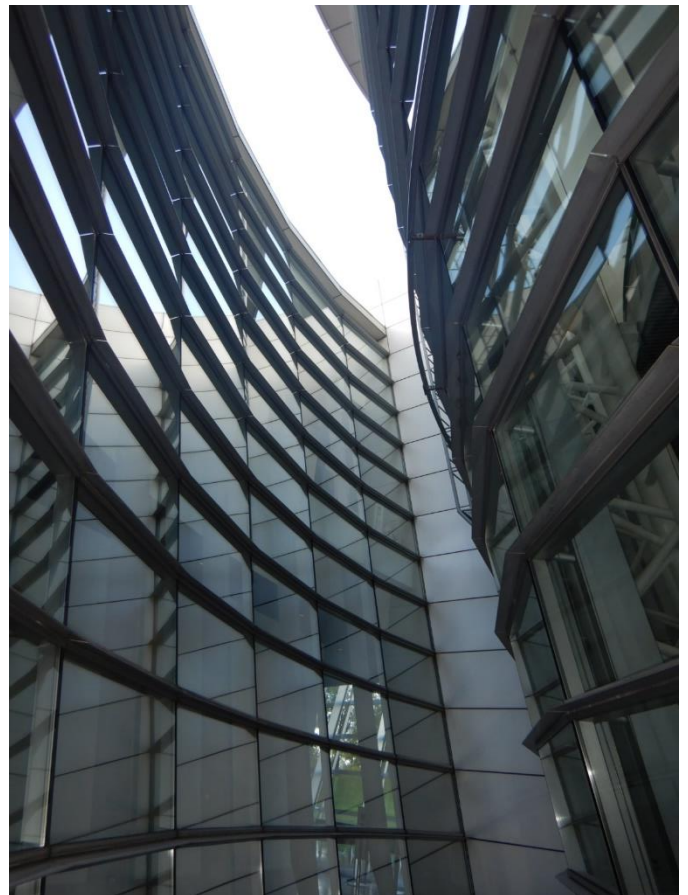
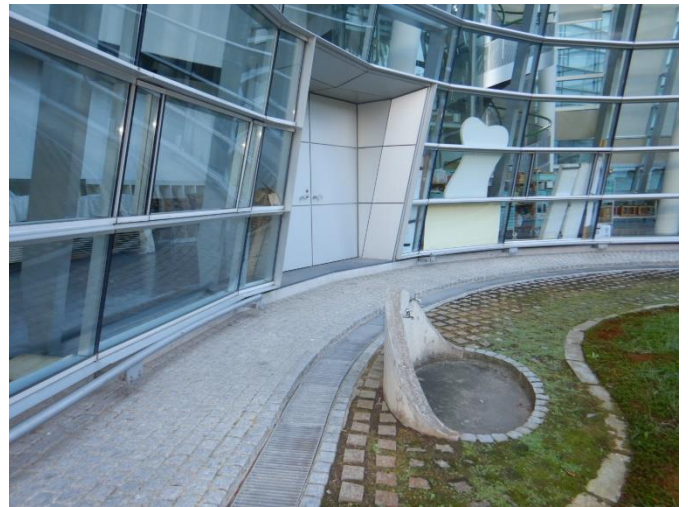
③ 三国の街並み

三国は九頭竜川の河口に位置し、古くから水運を利用した物流拠点として栄えた。江戸中期「北前船交易」が始まり、物流の一大集積地として賑わいだす。三国湊には格子戸が連なる町屋、豪商の面影が残る歴史的建造物など、情緒ある街並みが残っており、現在、民泊などにも利用されている。



④ 福井市美術館

1997年10月1日開館。設計は黒川紀章
国立新美術館とともに通じるところの
ある曲線を多様した有機的な形状で、外
観を縁取る外壁は、その大半がガラス張
りになっている。



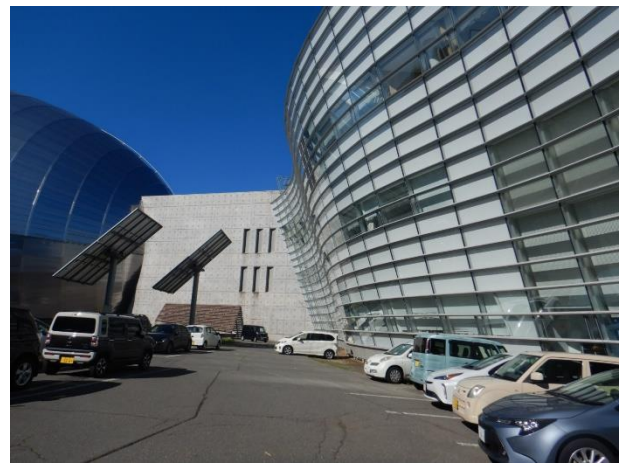
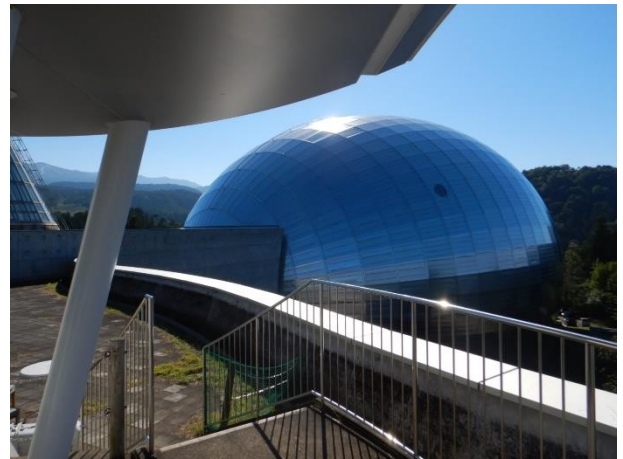
10月13日（日）

① 福井県立恐竜博物館

2023年7月にリニューアルオープン。

設計は黒川紀章。

緑豊かな長尾山の地形と一体化するように起状を活かし、敷地の高低差の中に沈み込むように立つ外観は、遠くからでも見える銀色に輝くタマゴ形のドームがシンボルとなっている。



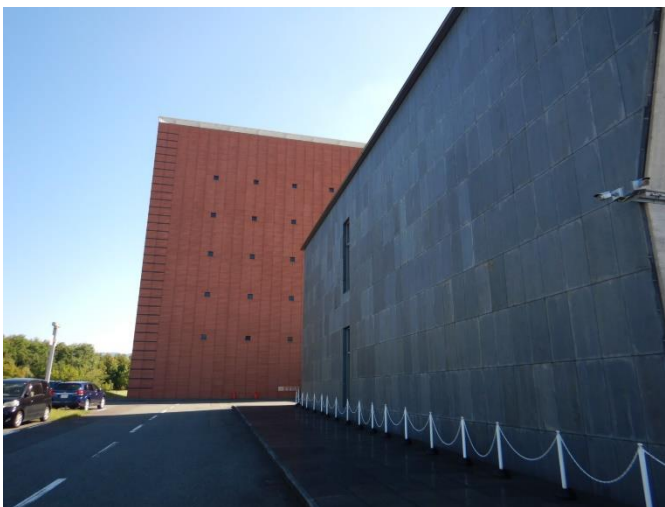
② 福井県立図書館、文書館

2003年2月1日に開館。

設計は槇文彦。

福井駅近くにあった旧図書館が手狭になったことに伴う新築移転計画により開館。

福井市郊外の田園風景の中でひととき目を引く赤いテラコッタタイルは自然環境と調和する「緑の中の庭園図書館」がコンセプト。

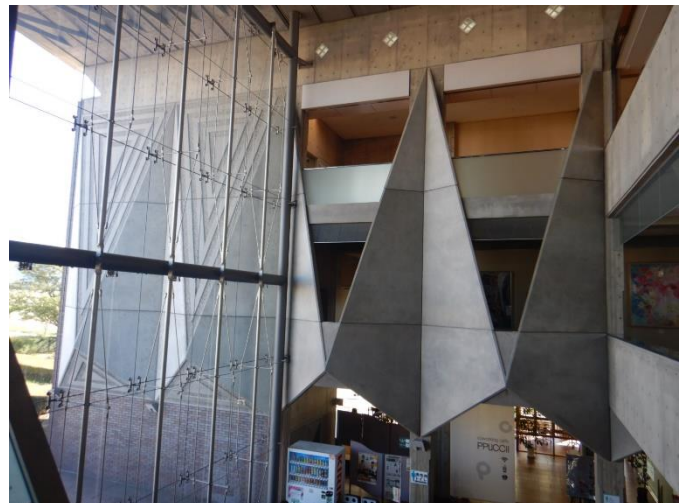


③ 福井県生活学習館ユー・アイふくい

女性の活動と生涯学習のために計画された複合的総合センター。

設計は林雅子。

建物は東西に延びる2棟の直方体に研修・事務ゾーンを配置。間にトラスを架けることにより、中央部にできる巨大な空間を多目的ホールとして設計。



④ 大本山 永平寺

曹洞宗の宗祖 道元が開いた道場で、寛元 2 年（1244）に永平寺と称した。

人里離れたこの場所で現在でも約 160 名の雲水と呼ばれる修行僧が修行生活を行っている。主要 19 棟が国の重要文化財に指定されている。

